

山田高×野辺西 激突へ

全国高校サッカー県大会 来月16日決勝

3年連続同一カード

第98回全国高校サッカー選手権大会は26日、それぞれ決勝した。青森市の県総合運動公園陸上競技場で準決勝2試合を行い、青森山田は弘前市に、野辺地は23年連続2回目、

先制。1点追加後、同26分に再び武田が決勝のパスを今度は右足で決めた。後半も開始ボールを支配し、1年生MF松木途中から入ったMF松木性（ながせ）の2得点なと計5点を加えた。弘前表に1本もシュートを許さず大勝した。野辺地は、膠着していた前半37分、相手ゴールに向かう勢い

走り負けず体張って。野辺地西は八戸学院光星にシュートを本しか打たせず2-0で快勝。チームの要・MF佐々木が2得点を挙げ期待したが、三上監督は「選

手権大会は独特の緊張感があるせいか、序盤に攻撃のリズムをつくれず、3点を取れなかったと冷静に分析。選手たちに奮起を促した。決勝は3年連続で同一カードとなる青森山田が相手。三上監督は「立ち上がりが大事になる。ボールを奪ったらしっかりを奪った。勝つて全団に進む」と必勝感を示した。

「60点次戦に課題」。100点満点の60点。前半3点だけなのも物足りないし、後半はプレーが雑になり、何度かチャンス逃して。監督は「試合は厳しかった。得点を奪った。後半はリズムが戻らなかつた。選手たちの気が緩む様子が見られた」と指摘した。青森山田の黒田監督は「試合は厳しかった。得点を奪った。後半はリズムが戻らなかつた。選手たちの気が緩む様子が見られた」と指摘した。



【準決勝・野辺地西—八戸学院光星】前半37分、野辺地西のMF佐々木（右奥）がシュートを決め先制

【準決勝・野辺地西—八戸学院光星】前半37分、野辺地西のMF佐々木（右奥）がシュートを決め先制